

地球科学輻合ゼミナール

(2010年度 前期 第1回)のご案内

「地球科学を見てもらう」プロジェクトの紹介と
太陽活動極小期における中緯度超高層大気の擾乱

齊藤 昭則

京都大学 大学院 理学研究科 地球物理学分野

地球科学のデータを幅広く見てもらおうとする「ダジック・プロジェクト」の紹介と、今年の1月まで3年間継続した太陽活動度の静穏期における中緯度超高層大気の擾乱についての紹介を行う。地球科学では多様なデータが測定され、公開されているにも関わらず、限られた専門家からしか利用されていない。多くの場合は、データの存在すら知られていない事が多い。例えば、夜光雲の出現領域と、桜島の噴火活動と、GPS電波の電離圏不規則構造によるシンチレーションと、京都の天気との相関を調べようとしても、データを探しだすだけでも困難である。このようなデータを探し出す仕組みとして、近年、多くの試みがされているが「ダジック」はデータを可視化し、視覚的にデータを探しだす仕組みである。視覚的なため、研究者以外の専門知識を持たない人へ地球科学を説明するのにも適しており、小中高校での授業、科学館での展示に利用され始めている。この「地球科学を研究者と社会に見てもらう」プロジェクトについて、現状と今後2年間の計画を紹介する。

2007年2月から2010年1月までの36ヶ月間は月平均の太陽黒点数が15以下であり、前回の太陽活動度極小期の12ヶ月間(1995年11月から1996年10月)、前々回の4ヶ月間などに比べて非常に長く継続する太陽活動度極小期であった。このように長い太陽活動度極小期は1911年5月から1914年3月にかけての極小期以来であった。この期間に中緯度で観測された超高層大気の擾乱についての観測結果を紹介する。

4月14日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 303号室